

各関係機関の長 殿

国立感染症研究所長  
(公印省略)

研究職員の公募について (依頼)

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、この度当所では下記のとおり研究職員を募集することになりました。  
つきましては、貴下職員に御周知下さるようお願い申し上げます。

記

1. 職名等

職名	業務内容	応募資格
<p>ウイルス第一部 第二室 任期付研究員 (主任研究官クラス) (若手育成型) 募集人数：計 2 名 任期：採用予定日より 5 年 ※ 任期付研究員 (若手育成型) としての再任はありません。 ※ 任期満了後に任期の定めのない官職の公募に応募することは差し支えありません。</p>	<p>ウイルス第一部は、出血熱ウイルス、節足動物媒介性ウイルス、神経系ウイルス、ヒトヘルペスウイルス、リケッチア及びクラミジア等に起因する感染症 (ヒト免疫不全ウイルスその他のレトロウイルスに係るものを除く。) に関し、次に掲げる事務をつかさどる。 一 病原及び病因の検索並びに予防及び治療の方法の研究 (これらに関するレファレンス業務を含む。) 及び講習を行うこと。 二 予防、治療及び診断に関する生物学的製剤の生物学的検査、検定及び試験的製造並びにこれらの医薬品の生物学的検査及び検定に必要な標準品の製造並びにこれらに必要な科学的調査及び研究を行うこと (他部の所掌に属するものを除く。) 第二室においては、ウイルス第一部の所掌事務のうち、節足動物媒介性ウイルスに起因する感染症に係るものをつかさどる。 第二室において、日本脳炎ウイルス、デングウイルス、ダニ媒介脳炎ウイルス、黄熱ウイルス、チクングニアウイルス、オロブーシェウイルス、その他の新興・再興節足動物 (蚊・ダニ) 媒介性ウイルス (アルボウイルス) に起因する感染症対策に係る業務及び基盤・応用研究を行う任期付研究員 (主任研究官クラス及び若手育成型) の公募を行う。 うち採用予定官職では次の業務を行う。 1. 日本脳炎ウイルス、ダニ媒介脳炎ウイルス、デングウイルス、オロブーシェウイルス、その他の新興・再興アルボウイルスの増殖機構、病原性発現・ウイルス-宿主作用機序、分子疫学及び新規検査系・治療・予防法 (抗ウイルス薬、ワクチン等) の開発等に関する研究</p>	<p>(主任研究官クラス) 1. ウイルス学、感染症学、獣医学に限らず生命科学・医学系 (分子生物学・細胞生物学・微生物学・免疫学・腫瘍学・発生学・構造生物学・医学・薬学等) のいずれかの学術領域において十分な研究経験及び業績を有すること (必ずしもウイルス学の研究経験・実績は必要ではない) 2. 新興・再興節足動物媒介性ウイルスの研究と感染症対応に取り組む意欲を有すること 3. 第二室が担当する国家検定 (日本脳炎ワクチン、ダニ脳炎ワクチン等)、検査、レファレンス業務に積極的に取り組む意欲があること 4. 部内の他の研究員及び所内外の共同研究者と連携して業務・研究等を遂行できる協調性とコミュニケーション能力を有すること 5. 大学院博士課程修了後概ね 4 年以上の研究経験を有する学位 (博士) 取得者、若しくは同等と認められる者 ※上記 1 から 5 を満たすこと</p>

	<p>2. 新興・再興アルボウイルス感染症に対する検査対応に係る業務</p> <p>3. ウイルス第一部第二室が所掌とするワクチンの国家検定、行政検査及びレファレンス業務</p> <p>4. ウイルス第一部内外の室・部・センターと連携をした新興ウイルス感染症危機対応に関する横断的な研究開発</p> <p>次世代のウイルス学及び感染症学の人材育成の観点から、採用予定官職の公募では生命科学・医科学系領域の幅広い分野からの応募を期待する。異分野からの採用者に関しては、OJT (On-the-Job Training) によりウイルス学・感染症対応の知識・技術習得の後、上記1の業務に関して、採用者の専門知識、技術等を積極的に活用した異分野融合型のウイルス学研究を遂行することを期待する。3の検定業務業務に関しても、OJTにより必要な知識・技術の習熟を行う。</p>	<p>(若手育成型)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウイルス学、感染症学、獣医学に限らず生命科学・医科学系 (分子生物学・細胞生物学・微生物学・免疫学・腫瘍学・発生学・構造生物学・医科学・薬学等) のいずれかの学術領域において研究経験及び業績を有すること (必ずしもウイルス学の研究経験・実績は必要ではない)</li> <li>2. 新興・再興節足動物媒介性ウイルスの研究、実験動物を用いた研究及び感染症対応に取り組む意欲を有すること</li> <li>3. 第二室が担当する国家検定 (日本脳炎ワクチン、ダニ脳炎ワクチン等)、検査、レファレンス業務に積極的に取り組む意欲があること</li> <li>4. 部内の他の研究員及び所内外の共同研究者と連携して業務・研究等を遂行できる協調性とコミュニケーション能力を有すること</li> <li>5. 大学院博士課程修了後4年以内の研究経験を有する学位 (博士) 取得者、取得見込みの者、若しくは同等と認められる者</li> </ol> <p>※上記1から5を満たすこと。</p>
--	--	--

## 2. 提出書類

- (1) 履歴書 (市販用紙使用、高等学校卒業以降を記入し、写真を貼付。)
- (2) 主要研究概要 (1,200字以内)
- (3) 応募職の業務内容に関する抱負 (1,000字以内)
- (4) 業績目録 (A4版縦横書き、別紙参照)  
※ 査読有りの論文については最低限、記載すること。
- (5) 論文別刷 (1編以上)
- (6) 学位記 (写し) 又は学位を証明するもの (A4に縮小すること)
- (7) 障害をお持ちの方で職場内での配慮を希望する場合はその旨を記載した書類

## 3. 書類提出先及び提出方法

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所 所長 脇田 隆宇

※ 応募書類の封筒に、「ウイルス第一部 第二室 任期付研究員 (主任研究官クラス・若手育成型) 応募」と朱書きの上、所長宛て親展として書留にて郵送してください。封筒に「主任研究官クラス」もしくは「若手育成型」と朱書きし、どちらに応募しているか明確にしてください。なお、提出された書

類は返却いたしません。

4. 応募締切日 令和6年10月7日(月) 必着

5. 採用予定日 令和7年2月1日(予定)

6. 任期 採用予定日より5年

※1 若手育成型として採用された場合、任期付研究員(若手育成型)としての再任はありません。

※2 若手育成型を応募しようとする者で、以前に「一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律」第3条第1項第2号により、国立の試験研究機関に任期付研究員として採用されたことのある方は応募できません。

7. 処遇

(1) 給与は、「一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律」(平成9年法律第65号)に基づき支給する。若手育成型の俸給は、同法第6条第2項により決定する。

(2) 1週間当たりの勤務時間は、38時間45分(週休2日制)です。

(3) 年20日の年次休暇(採用の年は、採用の時期により20日より少ない日数となります。)のほか、特別休暇(夏季・結婚・忌引・ボランティア等)、病気休暇の制度が整備されています。

※ 国立感染症研究所職員として任用される際の処遇となります。

8. 選考採用試験スケジュール

(1) 第1次審査(書類選考) 令和6年10月上旬~中旬(予定)

(2) 第2次審査(面接試験) 令和6年10月中旬~下旬(予定)

※ 第1次審査(書類選考)を通過された方には、当方から第2次審査(面接試験)に関する連絡をいたします。

9. 勤務地 国立感染症研究所 戸山庁舎 東京都新宿区戸山1-23-1

10. その他

令和7年4月1日に、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合した特殊法人「国立健康危機管理研究機構」が設立されます。このため、本公募により国立感染症研究所職員として任用された者は、令和7年4月1日付けで、国家公務員ではなくなり、法人職員となります。

11. 問い合わせ先

国立感染症研究所 総務部人事課人事第一係 宇田川

03-4582-2625 E-mail:jinji@nih.go.jp

12. 国立感染症研究所ホームページURL <https://www.niid.go.jp/niid/ja/appeal.html>

# 業績目録

氏名 \_\_\_\_\_

## 1. 著書

## 2. 学術論文（学会誌発表等）

### （1）欧文

### （2）邦文

## 3. 学会発表（講演・発表等）

## 4. 外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

### （記入上の注意事項（共通））

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。  
（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（ ）書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他は（他））
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。
8. 査読有りの論文については最低限、記載すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎  
(他炎症の組織病態  
〇〇社, PP. 67-87, 1989)

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou  
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイク-2002年アメリカ)  
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎  
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイク-2004大阪)  
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎  
(単) ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について  
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働省、〇〇(課題名)  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年

- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年